

# 令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立宍道小学校)

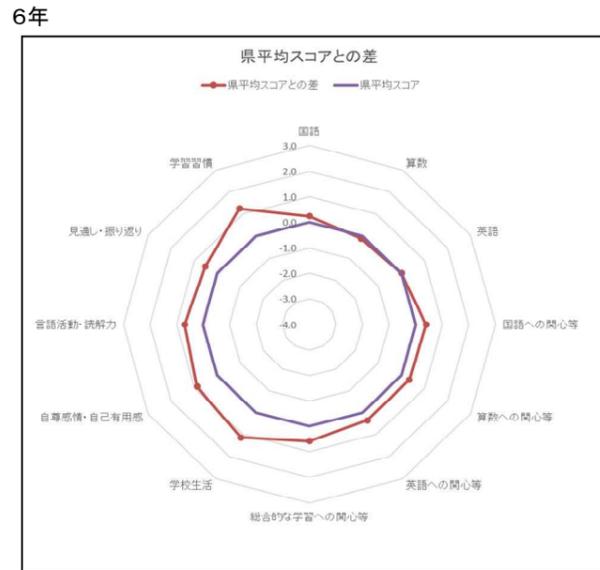
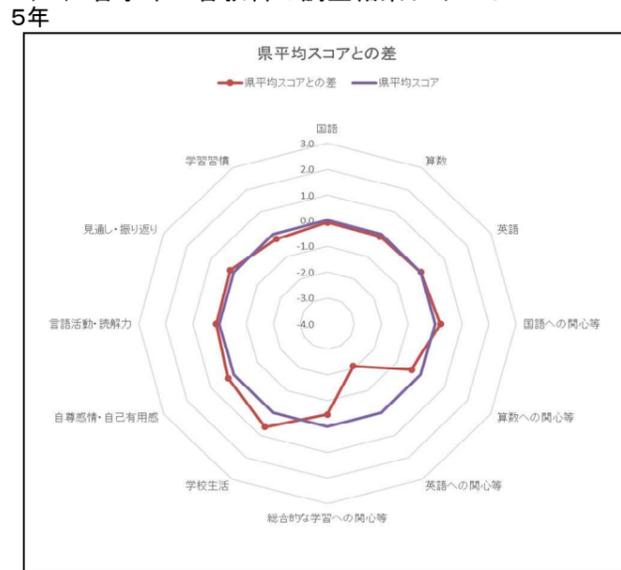
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○身近な漢字について、正しく読む書くことができる児童は多い。 ●文章の理解に時間がかかり、自分の考えをまとめて書く時間が足りなくなった。 ●ローマ字についての習熟が不十分である。	・新聞記事を読んで感想を書く活動など、継続的な読書活動をさらに豊かにできるよう工夫する。 ・外国語への関心を高め、ローマ字等の活用機会を増やす。
	算数	○整数、小数についての基礎的な計算技能がある程度定着している。 ●整数の計算をもとにして、考えの途中の言葉を記入することに抵抗が大きい。 ●理由や性質について記述することが苦手である。	・解決の方法を記述したり説明したりする活動に一人一人で行き届く時間を確保する。 ・グループ活動やペア学習などで自分の考えを表現する場で、お互いの考えや表現を磨きあう。
6年	国語	○漢字やローマ字について、正しい読み書きができる児童が多い。 ○読み手に分かりやすい表現を工夫して書くことができる児童が多い。 ●記述式問題に取り組むことに抵抗は少ないが、情報を整理して考えることが苦手な傾向がみられる。	・新聞記事を活用して感想をまとめる活動を継続するとともに、文章を見てまとめることにも取り組む。 ・読み取ったことをもとに意見や感想を交流する場を設け、情報を伝えたり自分の思いを表現したりするための表現力をつける。
	算数	○「知識・理解」と「技能」については、ある程度定着しているものと思われる。 ○数量の関係を文字を使った式に表すことは全員出来ていた。 ●解決の方法を説明したり記述したりする問題については、2極化がみられる。	・図と文と式をつなぎながら互いに説明し合う活動を取り入れた授業を継続する。 ・少人数指導の工夫によって、説明や記述の学習を、個に応じて進められるようにする。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業での話し合い活動をする機会が多いと感じている児童は多く、進んで話し合いに参加している。 ●地域や社会への関心は県平均は上回っているが、意識が高いとは言えない。	・児童の視野が狭いことがうかがえるので、キャリア教育で将来への夢や希望をさらに膨らませる活動を取り入れたり、総合的な学習の時間の充実を図り地域や社会にも目を向けるようにする。
	家庭学習に関わる事項	○読書に関する意欲が高まってきており、家庭学習への取り組みも向上しつつある。 ●家で学校の授業の復習をする児童が少ない。	・家庭学習の評価を工夫して行い、意識を再確認するとともに、読書活動との関連付けを図るなど家庭学習の内容を工夫していく。
6年	授業改善に関わる事項	○グループでの調べ学習、話し合い活動をよくしていると感じている児童が多い。 ●学校図書館の本を利用して学習することへの関心が高くない。	・学校図書館・図書館司書との連携をさらに強化し、調べ学習がより楽しく充実したものになるよう工夫する。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習への取り組みが習慣化し、学校の授業の復習をする児童が多い。 ●読書の習慣化について、県平均より上回っているが課題は残る。	・さらに意欲的な取り組みができるよう、家庭との連携をより豊かにし、児童の学習や活動を形成的に評価したり、身近な出来事と学習との結びつきを図ったりする。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	51	56
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数  
5年生 51人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	56	56
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数  
6年生 51人

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

